知事広聴「平太さんと語ろう」　記録

【日時】平成 26 年 1 月 24 日（金）10 時 15 分～12 時 15 分

【会場】島田市川根文化センター（チャリム 21）ホール

1　出席者

・　発言者　島田市・川根本町において様々な分野で活躍されている方

６名（男性３名、女性３名）

・　傍聴者　175 人

2　発言意見

	項　　目	頁
発言者１	未来に向けたお茶文化の保全・継承 川根茶の販路の拡大	3
2	茶園の耕作放棄地解消の要望	5
3	児童クラブの活動報告と県への提案	11
4	ママ宅事業の活動報告とＮＰＯ法人に係る行政への要望	14
5	川根ティーガーデンシティー構想 国道 473 号線の改良要望	20
6	島田・川根地区における地域活性化への取組	22
3	他県の高校生教育の取組	28
傍聴者１	大井川鉄道のきかんしゃトーマス誘致への支援の要望	29
2	県立博物館の設置の要望	29
3	地域の文化保存会の活動報告	30
4	県の原子力災害対策	31
5	教職員の勤務環境の改善の要望	32
6	川根における子育てニーズに対応した仕組みづくり	32

＜県知事挨拶＞

平成26年も明けました。この新しい年、皆様お健やかにお迎えになっていることとお喜びを申し上げます。大寒、大変厳しい寒さでございますけれども、今日は平日であるにもかかわらず大勢の方々、市長さん、町長さん、また県議の先生も御出席賜りまして誠にありがとうございます。

昨年のたしか11月だったと思いますけれども、移動知事室というのをやってまして、こちらの方に１泊、川根温泉に１泊させていただきまして、そのときに地元の方と夕食かたがた、いろいろと意見交換をしたと。そのときにもう少しいるべきだったという心残りがございまして、ぜひこちらで知事広聴をやってみたいと。

知事広聴というのは広く聴くということで、広報と広聴というのがありまして、広報の方は、こちらの方からいろいろな県の情報を皆様方にお知らせ申し上げると。広聴というのは、いろいろなお話を承るという、その承るのは単に聞き流すということでは当然ありませんで、問題がありますれば、その問題を今日は、そういう意思決定をできる人がここに来ています。もちろん市長さん、町長さん、県議の先生もいらっしゃるということで、問題はこれを解決するためにやると。そしてまたいろいろな御提言もあると思いますが、これはいいものは実現するということのためにやると、そういう趣旨でございます。

また会場の方も、多分どうしても言いたいということがあるかもしれません。時間の許す限り皆様方の御意見をしっかりお聞きして、それを皆様方の生活、また県の発展のために役立てたいと思っております。

この地域は、発展の可能性が大変高いというふうに思っているんですよ。これだけは申し上げておきたいと。浜松と静岡のちょうど中間にあって、志太、榛原のこの中核地域の大井川の流域ということで、そして空港もあると。また御前崎からずっと新東名まで30キロ、高規格の道がもうほぼ完成しつつあります。そしてまたＳＬですね。

「きかんしゃトーマス」というのが今度お目見えになるそうですね。そんないい話題もございますし、茶草場農法が世界農業遺産になったという朗報も昨年ございました。したがいまして、こうしたものを追い風にいたしまして、この地域の発展に役立てたいと思っております。今日はそうした役立てるための具体的な御提言をいただけるものと期待してまいりました。何とぞよろしくお願いをいたします。ありがとうございました。

＜発言者１＞

皆様、こんにちは。私は島田市川根町で朝日園茶房「遊」というお店をしております。

今回、このような場で茶業についてお話しさせていただくのは大変光栄なことだと思います。ありがとうございます。

まず初めに私自身のことなんですが、約 10 年前に川根に嫁いでまいりまして、茶業に携わることとなりました。島田市や川根本町の中で茶業に携わって 10 年というのは非常に短く、若造のような者ですので、そうそうたる方々がいる中で茶業についてお話しさせていただくのは大変恐縮に思っております。ですが私から見た茶業について思うことを今回お話しさせていただき、県知事にお願いをしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、茶業が抱える問題は数多くあります。持ち時間５分ではとてもお話ししきれないほど、たくさんの問題がございます。若者を中心とする茶葉離れ、あとは茶の木の老朽化、あと後継者の問題ですね。あと震災後、これ一番大事なんですが、震災後のお茶の売上げの減少です。数え上げればきりがないほどにたくさんの問題がございます。

しかし、今回私がお話しさせていただくのは、問題を列挙しているだけではなくて、明るい未来へ発信をしていきたいという願いなのです。私から茶業に関する県知事へのお願いは２つです。

まず第１に、未来に向けたお茶という文化を守っていただきたい、そういうお願いです。

家庭では家族間の団らんをとるべき場所であるお茶の間というものが姿をなくしつつあります。そして日常茶飯事ということが消えていこうとしています。昔は日常に茶とか飯とか、そういうことが当たり前にあったのですが、皆さん、だんだんとそういうのがちょっと薄れてきてしまっているのではないかなと思っています。

皆さん御存じのとおり、昨年 12 月４日に和食が無形文化遺産に登録されました。お茶も和食には欠かせないアイテムだということを忘れないでいただきたいなと思っています。登録された和食なんですが、和食自体ではなくて、日本人の伝統的な食文化、それが無形文化遺産に登録されたのです。和食の食文化の中で栄養バランスに優れた健康的な食生活、その補足の説明ですね。そこでは「一汁三菜を基本とする日本の食事スタイルは理想的な栄養バランスである」とございます。

では私たちの食生活の中で一汁三菜の食生活というのはどれぐらい占めているのでしょうか。もちろん煮物とか焼き魚といった和食も食べていますけれども、ハンバーグとかカ

レーとか、そういった欧米スタイルの食生活が占めている割合はすごく高いのではないかなと思っています。

そうした文化の変化の中でお茶を飲むといった文化もまた減少していってしまっています。そして日常茶飯事はだんだんと消えていっているんだと思います。例えば朝お茶を飲んだりとか、そういうのがなくなってしまったりとか、急須がない家庭があったり、お茶といったらペットボトルを指す、そういったことは現状にあります。すごくそれは問題だと思います。

私たちお茶所ですね、静岡県全体がお茶所ですけれども、お茶所の私たちに何ができるのかということを考えてみました。それはやっぱりお茶を飲むという文化を守っていくことだと思います。私は手揉み茶の保存会に入っております。小学校の授業で手揉み茶の実演をしたりもしております。子供は素直ですので、とてもおいしいものはおいしいということをすごくよくわかっています。

また茶業青年団たちは小学校でお茶の授業をします。その中で授業が終わった後、生徒たちは１人１つずつ自分用の急須をもらいます。そういった食育とか文化の保存というのは、こうした地道な活動からもたらされていくのだと本当に思います。県知事には、ぜひ今以上に県内の子供たちにお茶文化のすばらしさですね、そして県外に向けてのお願いとして、川根茶は日本三大銘茶だという誇りを伝えていっていただきたいと思っております。

もちろん文化の変化を否定するわけではありません。どのように変化していくのかということが大切だと思います。例えば県庁で行われる会議とか、そういった中で、やはりペットボトルのお茶とかではなく、こういった、今日すごくうれしかったんですけれども、この場にお茶が用意されているんですね。そういったことを続けていっていただきたいです。やはりちょっと面倒だったりとか、あとは人件費の問題とか、そういうものがあると思うんですけれども、せっかくのお茶所の静岡県です。ぜひそういったことを惜しまないでいただきたい。それもやっぱり広報活動であると思います。

第２のお願いなんですけれども、川根茶の販路の拡大の御協力のお願いです。さきに申し上げましたように、川根茶は日本三大銘茶なんです。そう言われるのにはもちろん理由があります。自然がもたらす最適な環境ですね。そして代々と受け継がれてきた土壌、それがすばらしい川根茶、凜々しい、おいしい川根茶を産んでいるんだと思います。もちろん私たち茶業者の努力というのはすごく必要だと思います。今以上に努力することは必要だと思います。ただ、民間では限界に近づいていることをすごく実感しています。客観的

にこの地区ですね、販路を広げるのにすごく恵まれた場所だと思います。

県知事にもぜひ宣伝をしていただくのにもすごくいい環境がそろっていると思いますので、例えば静岡空港が開港して日本全国に発信することができます。そして一昨年には第二東名がすぐそこですね、インターがあります。そこから大体 20 分です。そして道路で全国につながることができます。そして鉄道も島田－金谷、近いです、東海道です。そこから新幹線の停車駅である静岡にも掛川にもすごく近い場所にあると思います。行きやすい便利な場所です。

そしてあわせて売り込む観光資源も豊富にあります。川根温泉ですね、あと寸又峡温泉、そういった豊富な源泉ですね。そして春には桜、とても川根町、桜の名所できれいです。そして初夏には美しい山あいの茶畑が望めます。夏には川遊びをすることができます。そして秋には紅葉ですね。そしてこれはすごいなと思うんですけれども、冬には川根町の青年団が灯すイルミネーションといった、まさにおもてなしの光があるんです。

もちろん忘れてならないのは大井川鐵道のＳＬですね。先ほど知事にもおっしゃっていただきましたけれども、ＳＬ、とても魅力的なものだと思います。今年の夏には川根温泉のホテルが完成して受け入れ体制も整います。川根地区は知事が進める「茶の都しずおか」の中心となることができる地区だと思います。観光とともに、日本三大銘茶の川根茶を含め、ぜひ県外により一層の売り込みをお願いしたいのです。

なぜなら私たちの地区は限界集落をたくさん抱えているんですね。そういった中山間地区なんです。その中山間地区の主な収入というのは、公共事業だったりとか、高齢社会の年金、そしてお茶なんです。それが主な収入なんです。その茶業が立ちゆかなくなったときに、私たちの生活というのは一体どうなるのか。そういったことがすごく切実な問題なんです。どうかよろしくお願いいたします。

私から知事への要望は、未来に向けたお茶という文化を守っていただきたい。そして川根茶の販路の拡大、この２つです。どうかよろしくお願い申し上げます。皆様御清聴ありがとうございました。

＜発言者２＞

川根本町の地名というところで「川根美味しいたけ」という法人を経営させていただいております。

自分は夏の間はお茶、秋から春にかけては椎茸を栽培するという複合経営を昔からやっ

てきました。発言者１さんのお茶に対する熱い思い、今聞かせていただいて、思いは自分も同じです。お茶を何とかしたい、そう思っていますが、ちょっと後ろ向きな発言が入ってしまうかもしれませんが、自分が今日お話しすることは、そのお茶のことに関してです。

ここにおられる方は御存じだと思いますが、このあたりは山も迫っております。傾斜地で茶園の作業効率も悪いということ、それ以上にお茶の値段が下がっているということ、あと高齢化ですね、生産者の高齢化ということで、耕作を放棄してしまう、茶園をそのままにしてしまうというところが非常に目立っております。

行政面でも耕作放棄地に対しての政策をいろいろ施してくださっておりますので、自分たちも「美味しいたけ」という法人で毎年耕作放棄地を開墾して、新しいネギとかトマトとかそういう作物を毎年取り入れて非常に助かってはいるんですが、いかんせん自分たちの努力だけでは現状に追いつかないという状態です。

そこで私が知事にお願いしたいのは、現状で経営的にも体力的にも追いつかない生産者に、これ以上生産を続けてくださいということをお願いするよりも、どうぞきれいにやめましょうということを施していくのも１つの政策ではないかと思います。

もちろん自分たちのようにそれを後継して続けていくということもしなければならないと思いますが、とにかくそのまま耕作放棄されると、この川根に入ると「お茶のまちへようこそ」という看板があちらこちらにありますが、その横に３メートルもある荒れた茶園がある、これは観光面においても非常に景観が悪いことだと思います。せめて生産者はその茶の木を片付けて更地に戻していってほしいものだなと、自分は生産者の一人として思いますけれども、体力的にも経営的にも厳しい状況にある人がそれをやってくれるということはちょっと望めない状況です。

そこで、お茶の生産をやめたいと希望する人がいたら、その土地を更地に戻すということに政策を置いていただくことはできないでしょうかということです。そうすれば、例えば更地になっていれば、そこに果樹を植えることもできますし、先ほど出ました茶草場の草刈り場として自分たちは利用させてもらうつもりもあります。最悪の場合でも、山に近い場所は自然に山にかえっていくということも望めると思います。そうすることの方がこの川根地区の景観をより美しいものに変えていくのではないかなと自分は考えています。

ちょっと後ろ向きな発言で申しわけないんですが、気持ちは発言者１さんと全く同じで、茶業のこれからの進展を望んでいる一人として、知事に耕作放棄をなくすための一つの方策として考えていただければなと思います。どうぞよろしくお願いします。ありがとうご

ざいました。

＜県知事＞

どうもありがとうございました。発言者１さんの２つの提言は正面から受けとめまして、お茶の文化を大事にしていくと。特に子供たちにそれを継承していくということは、これはもう最も大切なことだと思っております。それからそのお茶の販路、きちっとした川根の銘柄をうたいながら、それを広げていくべきだということにも賛成です。

さて、今日はもうこういう形で煎茶をテーブルの上に用意していただきました。私知事になりたてのころに川根本町に入りまして、何かの折にペットボトルでこういうふうに飲んだらですね、そうなんです、叱られまして、「子供がそれを見たらどうするんですか」と、「知事ともあろう者がラッパ飲みとは何事か」と言われまして、へへへーということで、以来、新幹線などの中でやむなくペットボトルをいただくことはありますけれども、それ以外でそういうはしたない真似は一切しない。これは川根本町の文化でございます。

これは子供も知っているということで、おいしいお茶を子供のときから飲んでいるので、また飲み方も知っているので、この文化は残していかなくちゃいかんというふうに思っている次第であります。手揉みも含めて、子供にそれを継承されているということに敬意を表したいと思います。

それからそのお茶の文化ですけれども、食文化、和の食の文化が世界の無形文化遺産になりました。私は発言者１さんよりも、もっと強くお茶の方に力点を置いているんです。和食文化は、実はお茶の文化の一部だと思っているんです。通常、和食文化にお茶がつけてあるでしょというふうに言いますけれども、そうじゃないと。もちろんお茶を飲むということだけで言えば、食後に飲むとか、あるいは朝起きたときにいただくとか、そういう飲み方もしますけれども、広く日本のお茶の文化というのは、その中に食事も入っています。

茶の湯一つとってもそうでしょう。ですから待合に来て薄茶をいただいたり、そしてたばこを飲んだり、今はそういうことをしませんが、露地に入ってきれいな庭を見たりして、そしてお食事をいただいて、また最後には濃茶をいただくということで、お茶の文化の中に懐石料理というのが入っているわけですから、ですからその日本の食文化が世界の無形文化遺産になったということは、それを含むお茶の文化が世界無形文化遺産になるということなので、しかも和食の文化をユネスコに届けてくださったその取りまとめをしてくだ

さったのが静岡文化芸術大学の学長です。

川根本町には千年の森の大学がありますが、私先ほどまでその学長だったと思うんですけれども、やめさせられまして、多分今学長が継承されていると思いますが、その学長が、静岡文化芸術大学の学長があの和食の文化を取りまとめてユネスコに提出されて、それが認められたんですよ。学長の最大の専門はお茶ですよ。彼があの島田のお茶の郷博物館を設計してつくったんですから。ですから彼の本領が発揮されるのは茶の文化なんです。ですからこれからは茶の文化を世界無形文化遺産にしていくということで合意しています。応援してくれますか。ありがとうございます。

それでその拠点にはお茶の郷博物館、あるいは金谷中学の跡などが視野に入ってまいります。ここ全体をティーガーデンシティにしようという大きな構想もありまして、その中にはお茶だけではなくて、今申しましたような食材が入っているということで、お茶の中に食を入れ込むという考え方です、食の付け足しとしてのお茶ではなくて。

そして、食文化が豊かなので健康寿命が日本一でしょう。だから健康になるためには、この静岡のお茶の文化、その中に和食文化が入っておりますが、これを広めることだということを広めていきたい。健康寿命は日本一でしょう。この健康寿命が日本一の理由は、食材についてバランスよく食べられると、四季折々。今は北海道も日本海側もこういうきれいな天気のときには豪雪です。ところがこっちは外に出ても、すってんころりと滑らないでしょう、雪がないから。こんなところはないんですよ。

だからそういうところですので、四季折々、人々が外に出て軽い運動もできるし、こういう形で社会参加もできると。で食材が豊かだと。こういう食材のバランスがとりやすい。それから軽い運動がしやすい。それから社会参加をすると。皆が仲がいいと。このことが健康寿命を伸ばす最大のことだといって厚生労働省が、これに最高金賞をくれたんですから、これまでどおりでいいんです。あとはこれをどう宣伝するかということで、茶の文化を世界文化遺産にしていきますので、そのためには島田の人も、それについてはお茶の文化と食文化を一体的に考えるという考え方をお持ちいただきたいと思います。

それには食べ物として椎茸を発言者２さんがつくっておられるので、この発言者２さんの椎茸も大事にせんといかんということですね。だけど発言者２さんは非常に大事なことを言われました。それは耕作放棄地です。実は耕作放棄地は静岡県全体で２割を占めていました、４年前までは。日本全体では７％しかないのに、静岡県は山がちなところも多いがために、耕作放棄地にされたまま放っておかれて、それが全体の５分の１を占めるとい

うところまでいっていたのです。これは危機です。面積にすると１万 2,000 ヘクタールありました。

そしてこれを解消しなくちゃならんという大きな目標を立てまして、そして調べましたところ、そのうちの半分、6,000 ヘクタールはもう取り戻しようがないという、荒れてしまって。原野化しているわけですね。残り 6,000 ヘクタールのうち、何とか手がつけられるのは、さらにその半分 3,000 ヘクタールだと。その 3,000 ヘクタールのうち 2,000 ヘクタールはもう終わりました。耕作放棄地を元に戻したんです。

3,000 ヘクタールのうちの残り 1,000 ヘクタールは、実はこれどうしたらいいかということにつきまして、実は本当にこれを農地に変えられるかどうかということで、そのうちの選択肢の１つに自然林にかえすというのもあるというのが今出てきています。それからもう１つは、こういう農地をまだ使おうと思ったら使えるので、発言者２さんがおっしゃったように、どなたかにお貸しして、そして使っていただくということも考えねばならないということですね。あるいは思い切って更地にして別のものを植えるという勇気を持つということも大切です。

ですから伝統は守らねばなりませんが、守れなくなったときにどうするかというときに勇気を持つという、発言者２さんもこういうお茶の名人、お茶を栽培する名人のいる前で、使っていない茶畑を更地にするということの発言をするかどうか、相当悩まれていた感じですね。そんなわけで、それくらいこの耕作放棄地の問題が深刻だということです。我々１万 2,000 ヘクタールのうち１万ヘクタールぐらいは、なかなかにこれを戻せないような状況になっているのが現実です。ですから今ここはどうしようということを皆さん方一緒に考えていただいて、さっき言われたような提言を入れるという、そういう時期にきているかもしれませんね。

ただ、この地域は観光客が大きく増える可能性があります。これはもちろん発言者１さんがおっしゃったような道路のネットワークがいいということですね。もう鉄道があるでしょう。ひょっとすると新幹線の駅も空港にできるかもしれません。ＳＬに対する関心は相変わらず高いですね。そして温泉もあると。

それから今日はこういう美しいお花も飾っていただきましたけれども、島田のバラといえば日本中でだれも知らない人がいません。お花というのはどなたも幸せにしますから、このようにお花で飾ってくださると。それからこのチャリムというこの文化施設ですけれども、あちらこちらに絵が描かれていますね、きれいな風景画が描かれていました。

これは全部地元の人が描いたものかと見れば、地元の人のものもありますけれども、そうでない人たちも寄贈して壁にかけられていると。私控室に行ったら旧清水市の方、それから旧相良町の方のきれいなかわいい風景画が掲げられていましたが、やっぱりここを愛している方がいらっしゃるんでしょうね。そういう美しい景観のところなので、こうしたことがこれからの財産になるんだと思っているんですよ。

それをどのように売り出すかということにつきましては、まず交通ネットワークがなくちゃなりませんけど、ほぼ整備されていると。これをあとはどう売り出すかということですが、このお茶は、先ほどのお茶の文化を世界文化遺産にしていくという動きの中で、これから競争相手と組んでやっていくということが大事です。

競争相手というのは、今一番たくさんのお茶を売っているのは中国人です。外国人にとっては緑茶というのは同じだと思っているんですよ。だけど中国のお茶をお飲みになるとちょっと違うでしょう。いや、大分違いますよね。飲み方が違うし、味も違うし、ですから私は一緒にお茶の文化を世界無形文化遺産にしましょうということで、違いを含めて売っていこうと思っております。

浙江省の杭州というところは 700 万ぐらい人々が住んでおられますけれども、「お茶の都」と言われているんですよ。こちらは 370 万ですけれども、向こうの２分の１ぐらいの人口しか、杭州という町だけで静岡県の２倍なんです。浙江省というのはもう数千万いますから、東京の４，５倍大きいんです、人口だけで見てもですね。そこの杭州に匹敵するのが日本の静岡県です。そこと組むというくらい思っています。

それは違いを世界にアピールするためです。中国の販路の中に乗っていくためです。違いはこちらの方がいいという自信があるでしょう。負けないと。こちらのが清潔だし、きれいだし、そのきれいさはそれぞれ違いますけれども、こういうことで競うのはいいということで、いろいろな戦略を考えながらお茶の文化を売っていきますから、そう更地にするだけではありませんが、そうしなくちゃならないという思い切った勇気を持つと同時に、従来のじっと待って、買ってくださるのを待っているというそういう待ちではなくて攻め、攻撃は最大の防御であるということもありますので、皆様も一体中国の人はどんなふうにお茶を飲んでいるかと。中国まで行かないでも台湾ぐらいまで行けばいいでしょう。週に４日行っていますよ、飛行機が。時差もほとんどないし、こういうお茶かと、やっぱり静岡のお茶がいいねということを発見するために行くわけです。

相手のことを知らなければ自分のよさを発見できませんから、そういう意味で島田、川

根本町の方々は国際化していただくと。この１年の間、あるいは向こう１，２年の間に１回はお茶の文化を持っている台湾、ないし浙江省はちょっと遠いですけれども、台湾だとすぐ南ですから、食べ物もおいしいです。しかし全然違います。こちらは素材を大事にすると。だから食文化のあり方が全然違うんです。

その素材を一番たくさん持っているのが静岡県ですから、相手を知って自分のよさを伸ばすというふうにしなくちゃなりませんで、機会があれば一人で行かないで、ぜひお仲間と一緒に行って、敵情視察というか、あるいは競争相手ですね、ライバルをよく知るということを通して、島田、川根本町の方々の国際化をお願いしたい。

何しろトーマスという 70，80 年の歴史を持つ絵本のその向こうがここだと言ってきたんですから、こんなきれいなところを「きかんしゃトーマス」に走らせてみたいと思った、それだけの魅力のあるところなんです。ですからこれは大化けする可能性がありますが、まずは皆様方も自信を持って国際化していただくというようなことをしていただきたい。よろしくお願いいたします。

＜発言者３＞

私は島田市ペアレントサポーターというのは、市で養成された子育て支援の一人です。児童クラブ指導員というのは、小学生の子供が放課後、親御さんが迎えに来るまでを預かる場所の指導員をさせていただいています。

私が今日知事にお願いしたいことは、児童クラブでのことなんですけど、私が児童クラブの指導員になったのは、今の私の上司の主任さんが「来て」という形で、ちょっと子育ての経験と、あとその児童クラブのお手伝いに行った、そういう経験のみだけですけど、誘っていただいたということがきっかけで、今５年やらせていただいているんですけれども、やっぱり１回預かると、もう何か子供たちがすごくかわいくて、一生懸命遊んだり、宿題は「やだ」とかと言って、宿題の時間はあるんですけどね、やらなかったり、でも親御さんは日々仕事を忙しくされていて、できれば児童クラブで宿題をやって、うちではごはんを食べて一緒に寝るというような構想がありますよね。

私も仕事をしているので、その流れを期待しているんだろうなと思うけど、やっぱり児童クラブでは１年生から、長くて４年生の子供までが来ているんですけれども、その小学校で８時から２時くらいまで頑張って教室でお勉強して、その後放課後、また長い子になると６時まで御両親がお仕事をされて、お迎えに来る６時までいる。その時間帯が、結局

束縛というわけではないですけど、やっぱり児童クラブなので人数が結構いて集団生活になってしまうので、本当に好きなときにテレビを見て、ごろごろしてというふうにはどうしてもならないので、お宅で過ごすという時間とはやっぱりちょっと違うんですね。

本当だったら、やっぱりうちへ帰ったらだらっとして、宿題は後でいいや、寝る前でいいやみたいな、そんな感じとかになると思うんですけど、私も仕事していると、うち帰って「宿題やった？」みたいな感じの声かけをしてしまうと、やっぱり子供はおもしろくないですよね。母親というのは、よけいにうざったいような立場になってしまう。

そういうのもわかりながらお母さんたちがお迎えに来たときに「お疲れ様」と言って、それで「〇〇君、お迎えに来てくれたよ」と言うと、「ちぇっ」とかと言って帰っていく子供を見ていると、何というか、どんな気持ちでいるのかな、その子。やっぱり教室みたいなところにいるので、プライベートな部分が本当にトイレといっても共同だったりするので、子供たちがゆっくり自分一人でというのがなかなかないんですね。

なので、そういうところだと学校で何か嫌なことがあったら、それをそのまま児童クラブへ持ってきて、いらいらをぶつけて指導員に当たったり、まだ指導員だったらいいんですけど、子供に当たったりというその子供の気持ちをね、いらいらを考えると、それになるべく寄り添うように話を聞いてみたり、「どうしたの？」と言っても、やっぱり信頼関係がなってないと、子供も「うるさいな」という感じの言葉しか返ってこない。

だからなるべく何でもないとき、普通に話をしたり、一緒に遊んだりとかしている時間を大切にしながら、そのお子さんの気持ちに寄り添う感じでやってはいるんですけど、どうしても子供の人数分指導員がいるわけではないので、あっちでけんか、こっちでけんか、おいおいみたいな感じになってしまうと、本当におとなしい女の子たちは絵を描いてゆっくりしていたいのに、「わあーっ」と言って、「何々君」とかという声が指導員からあると、やっぱりそういう雰囲気というのはちょっとおうちでは違う雰囲気になると思うので、本当は知事にお願いしたいところは、児童クラブも専門の知識を持った方がやったらいいのではないかと思います。

ただ公募されて、私のところだけなのかよくわからないんですけど、島田市全体がそうなのか、わからないんですけど、公募で入って、その方たちが指導員として始まったんですね。やっぱり現状を見て、これでは私たちの子育ての経験だけでは、この子たちが安心安全に過ごすことはできないというふうに考えて、月１度子育ての、ちょっと極端ですけど、虐待防止の子育てのプログラムというのがありまして、コモンセンスペアレンティン

グというのがあるんですけど、それは本当にその子のいいところをほめて、とにかくわかりやすく指導していく。プラスその子の気持ちを取り上げるというか、とにかくその子を尊重したようなやり方というのをいろんなパターンで練習してみたり、勉強会を月１回、島田市の指導員、自主的な勉強会ですけど、それをやらせていただいて、「こんなパターン、みんなどうしてる？」「あんたっちクラブどうしてる？」という感じで話し合いをしていて、毎日をとにかく安心安全にやらせていただいているんですけど、やっぱり幼稚園、保育園には教育の勉強をされている方、で小学校にもそういう勉強されている専門の方がいらして、でも児童クラブは本当に主婦のそのままの人たちがいるというのは、どうなんだろう、危険なところはないだろうか。

実際やっぱり危なかったこととかも今までありましたし、なので、そういう指導員の自分たちのマインドというか、それもまちまちになっているんですよね。ちょっと年の上の方もいらっしゃって、「私はたたいて育てちゃった」という方も指導員にはいます。それは余り望ましいことではないので、「それはだめだよね」という、そういう勉強会をやって、初めて「あっそうだよね」というふうになったので、ある程度の基本の専門家の方がやられた方がいいのではないかと思います。

あと、さっき言ったそういう今からの子供を育てている私も含めてですけど、小学生の子供がいるので、親に対して小さいうちから今本当に核家族なので、おじいちゃん、おばあちゃんの意見とか、そういう他人の目がお宅にないので、本当に自分のやり方でしか子育てをしていない。でうまくいっていればいいんですけど、やっぱりうつになってしまったりというようなお母さんもいらっしゃるので、こういう私たちが今勉強しているコモンセンスには限らないですけど、感情的に子供を育てるんじゃなくて、こういうすべもあるよというのをちょっと勉強してから子育て、実践をしていくというような、勉強会というのかわからないですけど、そういうすべをちょっと知っていれば、何も知らないで子育てしているよりは、極端な話ですけど、虐待防止にもつながるのかなというふうに思います。

あともう１つですけど、児童クラブは、学校は学校、児童クラブは児童クラブと、今離れちゃっているんですね。１人のお子さんを、やっぱり「ちょっと乱暴だよ」という感じだけ、保育園とか幼稚園とかから、そういう情報だけ入っていて、実際接して見て、「どこが乱暴？」というふうに感じるようなところもあるので、接し方によっては違うのかなということもあるんですけど、学校でどういうふうに過ごしていたのか。

みんな１年生が帰ってきて、だれか１人遅くなって、「どうしたの？」と言ったら「先生

に怒られている、だから遅いんだよ」と言って、「何で怒られたのかな」と言うと、怒られてそのままの気持ちで帰ってくるから、その後の何でどういうふうに怒られたというその担任の先生との連携とかもあれば、こちらもその学校でのことをちょっといいようにというか、先生がおっしゃったことをかみ砕きながらその子に伝えてみたりとかという過ごし方もできると思うので、学校との連携ももう少しできたらなという思いがあります。

なので、児童クラブの指導員は専門家の方が含まれてというのと、学校との連携をつけて指導をしていきたいというのと、あとそういう子育てのプログラム的なものを母親になる人たちに少し知識を入れてからの子育てがいいかなということを提案させていただきます。よろしくお願いします。

＜発言者４＞

こんにちは。ＮＰＯ法人かわね来風というものを平成 20 年に立ち上げました。この「かわね来風」の「来風」という字は知事にも見てほしいんですけど、こういうふうに「来る」に「風」と書いて生活のライフとかけてあるんですけれども、新しい何かいい風が川根の地区に吹いてきたらいいなと思いながらやっています。

このかわね来風の主な目的としては、この町にとにかく長く、楽しく、住み続けられる人々を増やすということですね。今ニュースなんかでも、いつも静岡県の高齢化率とか、それから何年か後には人口がたくさん減るとかって、いつも川根本町が１番に出てくるんですよ。でも私たちはここにずっと住んでいたい。それも楽しく幸せにぴんぴんころりで生きたいということを、うちの母も含め、私もいずれそうなるわけで、それまでに何かしなくちゃいけないんじゃないか。そしてたくさんの人たちにそんな町に住んでほしいなと思ってやっています。

いろんな事業をやっているんですが、自主事業もありますけれども、これを私たちは仕事として、ＮＰＯ法人というと何かボランティアの団体だと皆さん思う方が多くいらっしゃるかもしれませんが、法人なので会社と同じですよね。自分の稼ぎは自分で稼がないといけないわけですよね。生活をボランティアではできないし、稼いでいかなくちゃいけないわけです。その中で地域に根差した仕事をするというＮＰＯ法人の中で交付金というものがあります。

私が前に県のＮＰＯの方が来ていただいたときに、私「川根本町のお金は使いたくない」と言ったんですよ。「できれば県や、もっと国とか、そういうところのお金を使って何か仕

事をしたい」って申し上げたら、新しい公共のためのモデル事業という交付金があるよということを教えていただきました。その事業の中で、この交付金を私たちが手を挙げなかったら全国のどこかにいってしまう。ほかの県とか、ほかの地区にいってしまう。だったら私たちがこの交付金に合うものを提案して、川根本町のためになることを何かしたいなというふうに思いました。

それで行ったのが高齢者宅配サービス推進協議会という協議会をつくりまして、今それででき上がったものがママ宅という事業です。ママ宅というのは、だんだんやっていく中で決まってきたんですけれども、赤ちゃんを連れたお母さんが、私たちみたいなおばさんの力を借りて、そしておばあさんやおじいさんたちに食事とか日用品を届けるという形です。

赤ちゃんを連れたお母さんが行くと、私たちが行くよりもよっぽど高齢者の方は喜ぶし、それから先ほど発言者３さんがおっしゃっていたように、核家族が増えてますから、うちの中に引きこもったようなお母様たちもいらっしゃったりしますよね。そしたらその人たちが外に出られるようにもなるし、そしてその人たちがおばあさんたちに接する姿を子供が見ているんですよ。それってすごく大切だと思いました。うちにおじいさん、おばあさんがいない人たちが、おばあさんたちに優しくできる１つの手段というか、そういうものになっていくんじゃないかって。

だから目に見える形ではおばあさんたちがありがたいなと思うかもしれませんけれども、お弁当持ってきてくれてありがたいなと思うかもしれないけれども、実はお母さんや子供たちの方が本当ありがたいことがたくさんあると思うんですね。これを交付金でやってきました。

私が新潟に発表に行ったときに、いろんな県の人たちも、みんなが困っていたんですね、いろんな高齢者の問題でね。だから何かうまくいったら教えてくださいねと言っていました。それなので、これは新しい公共のためのモデル事業なので、モデルにならないといけないと思って、私は今これを継続しなくちゃいけないなというふうに思っています。

でも交付金というのは、この事業を立ち上げるときには使えるんですが、それが 23 年、24 年で終わりました。今自力でやっています。自力と言っても、川根本町の福祉課の方たちにもお世話になって、そこから手数料というものをいただきながらやってますけれども、それだけではやっぱりもう事業が大きくならないわけですよね。でも、これをおばあさんたちから手数料を取るといったら、とても無理なことで、それでお母さんたちにただで働

いてというのも無理なことで、それでお弁当つくっている、何か日用品を届ける、その商店の人たちに手数料を出してと言っても無理なことなんですよね。

だけど、これを何とか続けていくためには、やはりちょっと公共的なところもあると思いますので、今からの継続という部分のところで、ぜひ元々ある、やらなくてはいけないというような事業のことを、もっとＮＰＯとかそういう人たちに任せて、委託事業みたいな形でいろんなものができていったらありがたいなというふうに思います。

１つのことで、今ママ宅のことを言いましたけれども、そういうことがいろいろあるわけですよね。だからもっとＮＰＯ、または団体に仕事を組ませてもらえませんかというお願いです。それは知事とどっちの方向を向いて言えばいいんでしょう。こちらですか。よろしくお願いします。

いろんな行政の仕事をＮＰＯに任せてほしい。交付金をやっていると思いますけれども、本当に経理というものは大変なんですよね。これは皆さんの税金を使うわけですし、大変なことはよくわかっています。そこも一生懸命この交付金の間にノウハウを鍛えました。そんなふうに交付金をもらってくると、そういうこともわかってくると思いますので、その続きの事業としてぜひ事業を回してほしいな。何か私たちとつながりたいなというふうに思っていますので、よろしくお願いします。

＜県知事＞

島田の発言者３さんと、川根本町の発言者４さんは、きょう初めて会われたんです。会った途端に気が合ったそうですよ。友達になったとおっしゃっていました。その理由がお話を聞いていてよくわかりました。

まず発言者３さん、児童クラブありがとうございます。児童クラブの問題点を指摘していただきましてありがとうございました。やはり子育てというのは、これはもう大きな仕事ですので、またしかも大切な仕事です。恐らく最も大切な仕事ではないかと思います。どういう企業であれ、あるいは県も市でもそうですけれども、いい人材を育成するというのが一番大切なわけですね。その人材を育成する一番最初が赤ちゃんを育てることですから、したがってこれは大変大切な仕事だというふうに思うわけです。

そのときにどうしていいかわからないというお母さんが多いので、そういうお母さん学といいますか、こうしたものを持っていることが大切だという御指摘ですね。そのとおりだと思いました。そういうお母さん学の一端がママ宅をすることを通して、そのおじいち

ゃん、おばあちゃん、なかんずくおばあちゃんの経験からわかるという面があるので、もちろん宅配をするので、お年寄りの女性なり老人がお喜びいただくんですが、一方で学ぶことがあるということで、そこで共通しているかなと思ったんですよ。

私どもは、まずは結婚する人がいいパートナーを見つけて、すばらしい家庭を持てるようにという運動をしておりますけれども、そのときにお母さんになるということは、同時に保育士になることというキャッチフレーズで、保育士の資格を取れるように、託児所なり、あるいは保育園ですね、そういうところに子供を預けている、そのときに一緒にいるということ自体が勉強になるようにしようと。場合によって、保育士の資格を取ろうというふうな気持ちを起こさせていただいて、その周りに保育ママなり保育士の方がいらっしゃいますので、そして実践を自分でやっているわけですから、保育士は基本的にいろんな知識と同時に一番大切なのは実践ですので、その実践をする場が保育園であり、かつ託児所ですから、そこでいろいろと学んで、そして本を読んだり、ビデオを見ていただいて、試験を受けて保育士になる。だから子供が大きくなると同時にお母さんが保育士の資格を持っていると、その分自信もつくというそういう運動もしております。

しかしさらにもう少し大きくなったお子様を預かっていらっしゃるということですね。そのときにですね、学校の先生とのコミュニケーションがとても大切だというふうに発言者３さんがおっしゃいました。そのとおりだと思います。

実は３日ほど前に、静岡県で一番困ったところというのは離島です。これは１つしかありません。初島です。220 人しかお住まいになってないですよ。小学校と中学校がありますけれども、両方合わせて 11 人しかいません。先生は 10 人弱いらっしゃいます。そしてこの間の学力テストでトップ５の中に入ってます。受けている人数も少ないんですけれども、それでなぜこんなにすばらしいんですかって先生に聞きました。

そしたらその 220 人、もう今から 200 年ぐらい前から大体 40 戸ぐらいの人口しかないんですよ。それがずっと今日まで続いているわけです。熱海まで十数キロの海によって隔てられておりますので、もし船が行かないととても不便で孤立することがあります。そこでは津波が来たときにはどうするかって、220 人の人は全部知っているんですって。彼らが心配しているのは、そこに来られる観光客をどのようにして助ければいいかと、人のことを心配されていました。

そして学校の先生にどうしてこのように学力が上がるんですかと聞いたら、しつけが素晴らしいとおっしゃるんです。だから 220 人の島民、小学校、中学校が 11 人しかいません

から、200 人以上の方たちが大人なわけですね。その大人の方たちが、もちろんおじいちゃん、おばあちゃんもいらっしゃいますが、しつけをしているという。だから学校では先生は授業をするだけでどんどん上がっていく。問題のある子がいて、そのために時間がとられるとか、教室を落ち着かせるためにいろいろと先生が工夫されることが要らないというんですね。だからいかに学校以外のところが大切かということです。

ですから今発言者３さんがおっしゃったように、先生とこういう児童クラブのようなところでなさっている方、これだけ大きなコミュニティになりますと、さすがに初島みたいにはいきませんけれども、原理は一緒ですね。みんなで育てるということで、学校の先生と児童クラブの指導員の方とのコミュニケーションが大事だということがあると同時に、これは島田は市長さんが、元教育の専門家として教育委員長も務められた方ですから、ここはもう熱心だと思いますけれども、そういうコミュニティづくりを通してお母さん学といいますか、最低限必要な知識なり技術というものを手に入れるためのそういう仕組みをつくらないといけませんね。これは僕はただ発言者３さんのところの問題だけだとは思いませんで、全県下の問題でもあると。案外小さなそういうコミュニティ、初島みたいなところにかえってそれが残っていたりしてですね、それはもう学ぶべきことですね。

そういう感想を持ちまして、ですからこの専門的な知識を持つ人たちを養成するというやり方も、各市町いろいろと工夫をすればいいと思いますが、基本的に子育てについては、子供が明るく元気に好奇心を持って、かわいがられながら愛情たっぷりに育つというそうしたことはもうどなたも皆御存じなので、これをどのようにして虐待をしちゃいけないということを徹底して、実は虐待される子供の数が、申しわけないですけど、うなぎ上りに増えているんです。これは本当に深刻な問題なんですよ。

それは今発言者３さんがおっしゃったように、どのように子供に接していいかわからないので、結果的にいたいけな子供をひっぱたくとか、そういうとんでもないことになるということになっておりますので、ここはすごく重要なので、今すぐどうということはありませんけれども、専門員というんですか、指導員のレベルを上げる、スキルアップですね、これはもうしなくちゃいけないということだと、そのとおりだと思いました。正面から受けとめます。

それから発言者４さんは、まあ本当に新しい公共というのを見つけられて、川根本町というところはいいところですね。投票率も高いでしょう。そしてこういう宅配ママやって、皆さん優しいわけですね。ですから発言者４さんがおっしゃったように、どっちが感謝し

ているかわからないくらいだと。だから高齢の方は無駄に人生を生きてきたんではなくて、そこから学ぶものがたくさんあるということなんですね。

特に子育てにおいて、何しろ子供を育てた経験者ですから、その経験を伝えるという、その日常の中で伝えられる、そういう存在ですから貴重な人材です。ですからそういう方たちをママさんがちょっとした仕事をして対価もいただきながら、子育てにも役立てられるということなので、これをどういうふうにすれば、きちっとしたお金も回る形にできるかということで、一緒に工夫したいと思います。

ただ、今核家族になっているということを発言者３さんもおっしゃって、日本全体の問題です。この核家族になった理由は、都会から始まりましたね。都会は狭いところにたくさんの人がお住まいになっているから、２ＤＫという、いわゆるマンションというんですか、箱ですね。箱の中で、２ＤＫというのは最初は 30 平米ですから、そこにもう２つの部屋と台所と茶の間を１つにした、そういう閉じられた空間の中で生活をするというのを日本政府が奨励したんです。２ＤＫ系列で、そこはもう初めから核家族しか住めないような構造になっております。一番広くても 100 平米ぐらいでしょう。100 平米というと 30 坪ですよ。３ＤＫといっても３世代一緒になかなか住むことができません。ですから初めから核家族になるようになっているんですね。

子育てがしにくいから、一番出生率が低いのは東京です。そういうことで高いのは沖縄ですよ。ですからコミュニティが残っているところは高くなって、やっぱりいろんな人が子育てのノウハウを若いお母さん方に伝授できるからだと思うんですね。だからここはもうおじいちゃん、おばあちゃん、特におばあちゃんの役割は大きいと思います。

「桃太郎」の話、自分の子じゃないでしょう。それをおばあさんが洗濯に行って拾ってきて育てて立派になったということですから、「かぐや姫」も自分の子じゃないですよね。おじいちゃん、おばあちゃん、多分おばあさんが実際にあのかぐや姫を育てられたんだと思います。

ですから、そのおばあさんという存在は、もうお母さん経験者として極めて貴重だと。これを新しい公共といいますか、子育てが日本の将来にとってとても大切なことで、静岡県においてもそうだし、子供が少なくなっているということは大変に危機的だということは共通しているので、お母さん経験者というのを入れ込むその仕組みを川根本町なり島田でも考えていただいて、これをきちっと対価が得られるように回していくと。

しかも発言者４さんは何とおっしゃったか。日本のモデルをやっているんだと。日本一

だと。モデルとして新潟で発表して、多くの方々が同じ問題を抱えていることがわかったので、これを成功させねばならない。この使命感はすごいですよ。どうでしょうか。何とかこれが継続して、このいい仕事は工夫しながら、試行錯誤しながら回していくと。こういうことのために皆さんの税金といいますか、子育てのためにそれが使われると、人のために使われるということであれば、私は基本的に問題ないというふうに思います。

これからの市町の仕事、県の仕事もなるべくみんなでやっていくと。その分、今まで県が、あるいは市が、町がやっていたその税金がそこに上手におりていくようにして、仕事を現場に委ねていくと。仕事を委ねるんですから、当然それに対する対価というものがあるので、それをその発言者４さんは委託とおっしゃったわけです。委託をしていくということで、本来公共がやることを新しい公共としてＮＰＯ法人にお任せして、それで回していくと。その仕組みはできるはずだと。そしてそれはどこかでモデルを成功させねばなりませんので、今これが成功しているという事例として国からも認められたということなので、何とかこれが継続していくようにしたいと思います。

＜発言者５＞

こんにちは。川根生まれ、川根育ち、川根在住で、このチャリムの川向かいのところで乗馬クラブを経営しております。その関係で国体の方にも馬術選手として２回出させていただきましたし、現在は静岡県馬術連盟の強化委員長として静岡県代表として国体で毎年戦っております。地域で馬術の話をしてもしようがないと思いますので、今日は地域の話を少しさせていただきたいと思います。

ここに前に出られている方、また皆さんもそうだと思いますけれども、地域を愛しているんじゃないかなと思います。私も川根が大好きです。この川根がやはりこれから永続的持続可能な地域づくりというのが求められている中で、今出生率の話とか等々出ましたけど、年間 30 人から 50 人ぐらいの子供が生まれて、その倍ぐらいの方が亡くなられているという中で、完全に人口は減っていきます。10 年前 6,500 人いた人口が、もう今や 5,000 人という地域でありますので、自力での生活サイクルというのはなかなか困難になりつつあります。そこで、じゃあどうしようかということで、私はやっぱり交流人口の増加によってこの地域の経済がどうにかなればなということで、少し観光というものが風に乗っておりますので、そこに乗っかりたいななんて思っております。

その地域づくりが大事という中で、私はやっぱりいろんな話を聞いた中で、「ベクトルと

努力」という言葉がすごく好きで、やはり目標を決めて、そこに向かって努力しようと。だから絶対的な目標が必要なんですね。そこで私静岡県の表している富国有徳という言葉が大好きで、やはり豊かな国、そして道徳があるということが絶対に両輪でなければならない。二宮尊徳なんかが言ってますけど、経済なき道徳と道徳なき経済、やはり経済があって道徳がついてくる、道徳も経済がついてくる、やっぱりそういう社会をつくっていかなければならないなと思います。

その道徳って何だ、豊かって何だという話なんですけど、やはり一人で考えても多分豊かってそれぞれ、おのおの違いますよね。ベンツに乗っているのが豊かと思っている人もいるだろうし、きれいな奥さんを持っているのが豊かと思っている人もいるだろうし、その中でみんなで話し合って豊かを共有しよう、豊かを勉強しようということで、私たち年に１回ここでフォーラムをやらせていただいています。豊かの追求、豊かの学び、そういうものを勉強している中で、私たちはある思いに届きました。

そうです。フォーラムをやっている中で川根をどうしたらいいかということで、川根ガーデンシティ、先ほど知事が言われていましたけれども、ティーガーデンシティなんていう構想がありましたけど、川根をガーデンシティにしたいななんていう思いにみんなで勉強して、その考え方を広めたいなということを今やっております。

そのフォーラム、できれば知事も市長さんも来て、講演なんかをいただいてもいいななんて思いますけど、川根ガーデンシティ、じゃあ、どんなことを考えているんだというと、やはり自然をアートしよう。せっかく自然豊かなこの町なので、アートして人に見てもらうようにしよう。それから考え方を次の世代のために考えよう。それからみんなで一緒に共同創造しよう。だれかがやってくれるとか、公がやればいいとか、それは民間がやればいいとかじゃなくて、みんなで創造しよう。そういうのが自分の中にすごく育ってまして、みんなでいろんなことを創造していくということからも考えて、みんなで議論して進めていければなと思っております。

せっかくこういう機会を与えられたので１つだけ知事というか、静岡県の方に陳情をしたいなと思うんですけど、私たち町は本当に観光というものを軸にしてこれから考えていきたいな、その付随として、やはりお茶があったり、山の農作物があったりということをビジネスにしていければなと思っているんですけれども、やはりその観光という玄関が新東名なり静岡空港、先週市長さんともお話しさせてもらって話したんですけど、やはり玄関からの表参道であるその 473 号線というのが、やはり生活道路の中では機能しているん

ですけど、よその方に来てもらって、じゃここはおもてなしの道路なのかといったときに、実はなかなか気持ち悪くて酔っちゃったよとか、あんなに時間がかかって怖い道だねなんていうお言葉をいただくので、その道路が何とかなればなというのが、すごくみんなの中で話が出ております。

20 年前にこの町に、国道のない町から国道ができた町になりまして、国道になったからよくなるねなんて思っていたら、なかなかやっぱり足踏み状態でして、そこが大きく変わっていけば、この町の活力というものを掛け算にして、すごく大きな成果が出られるんじゃないかなと私は思っております。

いろんな施策の中で静岡県の考え方はすごく僕大好きですし、これからもどんどん、どんどん日本一の県にしていってほしいと思いますので、ぜひ知事さんにはいろんな施策をこれからも川根町、それから島田市、いろんな協同創造のもと、豊かな地域づくりができるように御協力いただければと思います。ありがとうございました。

＜発言者６＞

皆さん、こんにちは。私は金谷地区で石材業を営んでおります。よろしくお願いします。

石屋が何でこんなところにいるんだということなんですけれども、今日は私、島田市商工会に所属しておりまして、その中に商工会青年部に配属されております。今日はその商工会から見た地域ということでちょっとお話をさせていただければなと思っております。

昨年、島田市商工会青年部はあることで日本一をとることができました。そのあることというのは部員増強日本一です。島田市長にも表敬訪問させていただきましたけれども、昨年まで 45 名だった部員数が、わずか９カ月間で 52 名が入部していただき、97 名となりました。そして現在 103 名という大所帯となっております。ということは、この地域には若い方がまだまだ、元気な方がまだまだ大勢いるということですね。

その中でもその 100 名を超えた元気な者の中から、まだいろいろこれをやりたい、あれをやりたい、そういう若い元気な方たちがその中から飛び出して、新たにまた島田ではいろんな団体が誕生しております。代表的なものを言いますと、島田を熱くしたい「しまアツ」、ここにいらっしゃる発言者１さんもメンバーの一員なんですけれども、島田を盛り上げたい、島田を熱くしたいという「しまアツ」という団体。そして島田をおしゃれに盛り上げたいという「おしゃれボーイズ」という、こういった団体が今立ち上がってきております。

そして川根には川根青年団、隣の発言者５さんが御尽力を発揮していただいております川根青年団という団体ですね。後はＪＣですとか、ＡＧという形で、島田にはこういった若い方たちが活躍する団体が数多くあります。やはり地域はこの若い方がこれから盛り上げていくんじゃないかなと私は思っております。

その中で新東名の開通ですね、これは金谷コミュニティ委員会が、島田金谷インターチェンジの周辺の開発、内陸フロンティア構想において、地域の皆様を集めましてワークショップ等を行いました。そしてさまざまな意見が出されました。ただ、ここは農業振興地域ということで、簡単に農振を外すことができない場所でございます。ただ、これは決して可能性はゼロではないと思っております。県と、そして市、また地域の方が一丸となっていけば、まだまだ可能性はあるのではないかなと私は思っております。その中に若い方たちが入って、どんどん意見を言い合う場所をつくっていけたらなと思っております。

そして富士山静岡空港ですね。先ほど知事がお話しされたように、新空港駅を含めまして、今後この地域が大きな活性化に向けての軸となる場所だと私は思っております。空港利活用問題もしかりですけれども、地元がまず動くということも大切ではないかなと思っております。そして我々のような若い青年層が動かなければならないと思っております。

そして、そこで我々島田市商工会青年部の中で、この空港をどうやって活用していこうか。この空港を使ったさまざまなビジョンを今描いております。これは我々の力だけではなかなか前に進めていくことはできません。もちろん県、そして市、そして企業ですね、巻き込んで壮大なこの企画をぜひ実現していければなと考えております。

また６月にも決まるかもしれない南アルプスユネスコエコパークの登録ですね。これは世界遺産の富士山同様に、観光資源の確立となると思っております。ただリニア工事のもたらされる環境破壊ですとか水問題、十分この辺を留意していただいてほしいなと思っております。そして川根温泉、建設中のホテルも指定管理者が決定しました。この地域は本当に私は追い風が吹いていると思いますので、ぜひこれをうまく活用して地域を盛り上げていきたいなと思っております。

以上のように、この地域には人が集まる場所、人が入る入り口、玄関が私は複数あると思っております。豊かな水量の大井川、そしてＳＬですね、この町は今後大きく私は変わっていくと思っております。そしてまだ１つ１つの明確なビジョンが見えてこない中で、先ほど発言者５さんが言われたように動線ですね、この３つをつなぐ動線が早く実現していければ、この島田、川根地区、どんどんこれから豊かになっていくんじゃないかなと考

えておりますので、ぜひ県、そして市、そして我々若い青年層たちが力をあわせて取り組んでいきたいなと思っております。ありがとうございました。

＜県知事＞

発言者５さんと発言者６さん、共通しているのは二人とも格好いいということです。それでやっぱり格好いい人が言う話は、やっぱりおしゃれですね。ネクタイもおしゃれで、メガネもおしゃれで。

ともかくガーデンシティという言葉が出て喜んでおります。浜松は工業都市ですよね、静岡は商業都市でしょう。インダストリアルシティ、コマーシャルシティです。こちらがガーデンシティだというんです。いいじゃないですか。そのとおりだと思いますよ。ただそういうふうには見ていなかっただけです。お花もある、お茶もある、景色もきれいだと、温泉もあると。まさに風景の画廊のようなところですから、そこは美しくせねばならんと。それはおしゃれというのを入れ込む、男性が言うから余計にいいですよ。

それでまず発言者５さんのフォーラムを開いて何が豊かさかということを皆で議論していく中でガーデンシティというような言葉が出てきたと言うんですが、それは恐らくガーデンですからお花が咲くでしょう。お花というのは人を幸せにします。これ別にすぐに役に立つわけじゃないですけど、お花１輪、これで人の心は和みます。ですから人を幸せにする。これは人の心が豊かになることではないかと思います。この川根茶、三大銘茶の一つのお茶を一服いただいて、ほっとして、ああ幸せということですね、これもまた人の心を豊かにすることだと思います。

それからおいしい椎茸をいただいて、一杯こうやると、発言者５さんもそういうことがお好きなようで、私もそういうのが好きなんですが、これはうめえというわけでですね、これも幸せですわね。ですから、お花を大事にする花の都にしようと。お茶の都であることはもう間違いありません。食材が豊かだから食の都にもできると。だからそのように仕掛けをどうつくったらいいか。

やっぱり富士山が世界遺産になったので世界遺産センターをつくらねばならないと思うんです。９つくらいの応募があって、富士宮市につくることになりました。そこに行けば富士山が世界文化遺産であることの理由といいますか、それが皆わかる仕掛けになっているわけです。そうすると花の都、お茶の都、食の都にかかわるセンターのようなものをどうつくるかということもあわせてできるかもしれませんね。

でもセンターは単なるこういう四角四面の建物というのではなくて、いろんな工夫が要ると思いますよ。差し当たってお茶の郷博物館がありますから、それがもうあれ東洋で最大ですよ。少なくとも日本で最大です。英語の本を読んでいても出てきますよ。それくらいに有名です、国際的に日本で唯一のそういうものですから。ですからあれは利用価値がすごくあるんです。お茶と食が結びついて、かつお花の地域だということになれば、それを上手に集中的に見せる方法というのがあるのではないかというふうに思いましたね。

そしてまた発言者５さんは馬術でも活躍されているので、スポーツといいますか、そうしたことも念頭に置くといいと思いますが、そうするとスポーツをするのは、もちろん老若男女皆しますけれども、青年ということになりまして、この発言者６さんが何しろ日本一ですよ。47 名を 100 名近くにしちゃったわけですから、もうすごい人です。青年部といいますか青年団というそういう組織をつくっていく。皆若者がいい仲間ができて喜んでいるわけですね。これからいろんなことをしていこうと、こうおっしゃっているわけです。

まず一緒に釜の飯を食うために、台湾あたりに行ってください。一緒に旅することぐらい楽しいことはありません。そして自分たちの議論を違うところでやることによって、よし、帰ってから何しようということになりますので、ぜひそういう企画も今度のフォーラムは、思い切ってできるだけの人でいいですので、台湾でやろうとか、台湾のことばっかり言って申しわけありません。

実は私は、教育旅行などを通して、静岡県のすべての高校生が 10 代のうちに外国を経験しているようなそういう人生を持ってほしいと思っているんですよ。外国に行くためにはパスポートが要るでしょう。ですからすべての高校生はパスポートを取得する。パスポートを取得することは、何もすぐ外国に行くことではありませんけど、いつでも行けるんです、そこに空港があるんですから。そしてそれをクラスごとでもいい。一気に 100 人以上の１学年全部で行くとチャーター便が必要になりますので、100 人以下ですと予約をすれば１クラスぐらい全員行けますよ。そういうふうにして海外経験を持っていただくと。そのためにはまずは青年団から始めるということでお願いしたいというふうに思います。

それから発言者６さんからエコパークの話が出ました。これはいいですね。南アルプスがエコパークになる可能性が高いです、この６月に。その向こうに中央アルプスがあります。その向こうに北アルプスがあります。登山者にとっては北なり中央アルプスなりが有名かもしれませんが、エコパーク、すなわち植物というか、生き物の多様性が最も見られるのが南アルプスなんですね。

なぜかというと、中央アルプスは長く雪に閉ざされますから、なかなか生きるものにとっては生きにくいところです。中央アルプスも似てますけど、南アルプスは南風が早くに当たるので、早くに高山植物が顔をもたげて、そういう寒いところに咲く高山植物から、暖かいところに咲く植物まで、ありとあらゆるものがあるということでエコパークになり得るんですよ。これはその意味で地球生態系のモデルみたいなものです。亜寒帯から亜熱帯まで全部あるというような感じですから、ものすごく貴重です。

さて、そこにリニア新幹線が通るということで、これをとめるのはひょっとすると難しいかもしれない、国策ですからね。ですからどういうふうにすればエコパークと両立できるかということを考えなくちゃならない。そのときに環境と水とおっしゃいましたが、水は絶対です。これは譲ることができません。どうしたらいいか。

大井川の水が、必ずしも多くないということは皆知ってますわね。ですからいかにしてこの水を確保するかというのは、この７市２町ですか、関係するところすべて関心を持っていただきたいというふうに思います。この水が減るということがあってはいけないし、環境を悪化させるようなことがあってはならないということですので、多くの方々は関心を持って見ていただきたいと思います。

このエコパークというのは地球の財産ですから、そうしたものを持つというのは、これは当然お二人の関心でありますけれども、観光の方々がお越しになるということでもあります。そのときにここがお花や食やお茶の文化ですね、こうしたものに自覚的に皆が協力して、花の都、食の都、茶の都に来たというこれを実感して帰っていただくと。身近に見るこういうものも背景の借景もきれいだと。こういう南アルプスなどというのは、どんなにお金を積んでも、つくれないんですね。ですからこれはお金にかえられない貴重なものであります。

これを守ることが結果的には観光客を増やすことになるということで、空港を核にして、また新東名を核にして、今内陸のフロンティアというふうに言っておりますが、この内陸のフロンティアというのは、フロンティアというと乱開発ということに結びつきかねませんので、建物を建てるときにも木の高さよりは高くさせないと。必ずそこには建物と庭というものを一体にして、周りは額縁が自然によって囲まれているというふうにするとか、そして建物と周りの景観とが一致しているといいますか、調和していると。どの建物も周りのものを借景として生かすようにしてつくるとか、だから新東名 162 キロありますけれども、そのモデルがこの地域にあるというふうにすることがとても大切です。

ガーデンシティにはガーデンシティの都市計画がないといけないので、周りは本当にきれいだというふうに、案を出すのが我々の仕事ですから出すと。それをもんでいただいて、そして自分たちの意見を入れてやっていくと。

一からやるのはなかなか大変なことがありますので、そういう公共のための仕事をするのが我々の仕事ですから、例えば空港に、展望台行かれた方いらっしゃいますか。ありがとうございました。展望台、どうですか。いいということです。あれも最初は案を出したんですよ。ものすごいしゃれたものだったんです。そしたらあそこのご住職、石雲院の、こんなハイカラなものはわしゃ要らんとおっしゃったんですよ。どんなものがいいんですかと言って、そしたら金閣寺みたいなものをつくってこられたんです。こんなに高いものはつくれませんよということになりまして、それですったもんだやっているうちに、ああいう円形のものができたんです。

円相といいまして、禅の思想にもかなっていると。いわば角がないわけですね。向こうに富士山が見えると。それでですね、「石雲院展望台」というのを石雲院の住職が希望してくださって、もうだれもかれにも喜ばれた形になって、恐らく羽田よりも、羽田にはたくさんの人が来られるそうです。こちらは富士山を借景にして飛行機が飛来するのを見ることができると。これもまず案を出して、そしてもんでいただいて、すったもんだして、そしてできたものであります。

そういうもむことが大事で、この地域の全体図ですね、こうしたものをそのうちお見せしますから、それをできたら見せると。またこれを小さな模型にして、これをああだ、こうだと言っていただくと。ただし自分の地域は自分でつくるということでございますので、しかし外の知恵を入れるときれいなものができるということもありますので、余り思い込みを押しつけないようにして、常に開かれた気持ちを持っていただいて。そしていわば国際標準に、エコパークは国際標準ですよ。茶畑、茶草場の農法もこれ世界標準ですね。世界標準なんです、もうここは既に。

世界標準に合ったような、しかしいかにもそこはここしかないというそうしたガーデンシティをつくる必要があります。そういう意味で可能性が非常に高いということで、今日はお二人、格好いい青年の御提言を聞きまして心強く思った次第であります。ありがとうございました。

＜発言者３＞

すみません、一言お願いしたいんですが、ほかの県なんですが、高校生にこのコモンセンスペアレンティングを実施されている県があるので、別に親ではなくても、今から、高校生だともう教室にいますから、そこに派遣されたトレーナーさんが行って 90 分、授業としてやっていくという。そうすると自分が母親にとか父親にどういうふうにされて育ったというのも、自分の経験と親がどういうふうにやったというののこれ違うとかという、その比べることができるので、それで多分そこの県はやられていると思うんですけど、そういうパターンもあるのでちょっと検討していただけたらと思います。

＜県知事＞

高校生は義務教育を終えて一番多感なときですね。ですからそのときにいろいろと経験を積んでいただくことが大切です。そのうちの１つが、例えばパスポートを取るということもありました。それから静岡県は南海トラフの巨大地震も想定内になりまして、防災について意識を高めねばなりません。そのために例えば裾野高校というのは、高校２年生で皆防災のカリキュラムが組まれていまして、高校３年になりますと全員がジュニア防災士です。これも大したものですよ。ジュニア防災士になるということは、カリキュラムでいろいろと教えていただくので、そうすると家に帰るとお父さん、お母さん、家の留め具はこうしなくちゃいけないとか、いろいろと家でも話すことになりますから、全体の地域の防災力が上がるわけです。

今発言者３さんがおっしゃったような、そういう親学のようなものも組み込もうと思ったら、それはできるということで、高校生の教育は、大学に行くためだけだとかいうような、ある種凝り固まったものがあります。これもっと柔軟にしていきたいと。私は実学という言葉を使っていますが、それは農業とか、それから商業とか水産業とか、それからスポーツとか芸術とか、要するに実践的になるようなものを自分たちが目覚めるときですから、そうしたものに関心を持っていただけるようなカリキュラムを大事にして、それを育てていくと。いわゆる英数国理社という主要５科目に偏重したそういう教育を根本的に改めたいというふうに思っているんですよ。

今日の新聞でしょうかね、有馬先生、本庶先生、両方とも文化勲章ですよ、その人たちが入って新しい実学を考える委員会を昨日開いていただきました。ごらんになりました？有馬さんは元東大総長でしょう、文科大臣です。しかしうちの大学の理事長ですよ、すご

い人。本庶先生というのは日本の医学界の天皇みたいな人です。去年文化勲章受賞ですよ。うちの県立大学の理事長です。そういう人たちが今申しましたようなことを考えている。

さすがに親学の話は出ませんでしたけれども、そういう本当に社会の役に立つ、こうしたものを義務教育を終えた年齢あたりから、社会がそれを高校に提案をして、そして学校の主体的な教育のカリキュラムの中に入れていただくというふうにしていきたいと思っています。

私自身は普通の高校には知事賞を出しません。知事賞はもちろんなかったんですけれども、実学をやっている農業だとか、そういうことをやっているそこのところに態度、行動、そして技ありというのに知事賞を昨年から出しております。そういうふうにして励まそうというふうに決めておりまして、きょうはその新しい実践の学、親学について発言者３さんから御提案いただいてありがとうございました。

＜傍聴者１＞

大井川鐵道に 49 年間勤めておりまして、いろいろとこれ状況も悪いし、いろいろ世の中の変化で貧乏会社になってしまったんですけれども、平成７年に「きかんしゃトーマス」が本線を走りたいということで、私イギリスへ一人で行ってきました。それで今日もここへコピーを持ってきました。それ以後、かばんの中へ入れて、今日はずたずたになっちゃいましたけれども、持ってきました。ぜひ知事さんにこれ見ていただいて、応援をお願いしたいと思いまして、よろしくお願いします。

＜県知事＞

「きかんしゃトーマス」応援します。これは教育テレビでやっているでしょう、朝。知ってますよ。おお、本当だ。いろんな物語をするんですよ。ありがとうございました。

＜傍聴者２＞

私は家山が大変好きで、静岡市からこちらに移住してきました。今日はまず最初に青部の吊り橋を保存していただいたことに関しまして、知事さんに感謝申し上げます。

今日私がお伺いしたいのは、知事さんはオックスフォード大学等に留学されて、ヨーロッパの博物館事情、これは十分教育との連動、地域の格上げ等々に貢献されていることは御承知のとおりだと思います。そこで静岡県というのは、残念ながら全国 47 都道府県の中

で博物館がないのは静岡県と奈良県、ただし奈良県には国立奈良博物館があり、奈良そのものがもう屋根のない博物館ということで、世界遺産も非常にたくさんある。

そういう中で博物館というのは非常に大切なものでありまして、やはりその博物館の役割を簡単に、これは皆さん御存じのとおりなんですが、当該自治体の文化財というのが、最近静岡市も政令市でありながら博物館がありません。そういったものがないためにデポジット、つまり保存するところもない。そしていろんなものが崩れ去っていく。いわゆる博物館というのは、地元の人たちの心を育てる意味でも、先ほど知事さんがやった学校以外のところでというところで重要な教育効果を持っております。

そこで、都市格を向上させる意味でも、ぜひ教育、文化、歴史の発信基地として、やはり静岡県は東海道五十三次の中で二十二次もあって、人と道といろんな物が交流し、世界でも冠たる大変なものです。ですからそれを国と抱き合わせて、例えば富士山静岡空港というところは、もうこれから着地型観光として、あそこからいろんな方に来ていただきたい。そういう意味でもぜひ博物館を静岡県として、ぜひ最後の都道府県の中での立ち上げる県として、世界の人が、あるいは地元の人が期待するようなものを構築し、そういうことを立ち上げていただきたい。そうしないと、いわゆるいろんなものが今はあちこちに流れ、それを保存もできない状況になっております。

静岡県はデンマーク、あるいはポーランドと、例えば財政的にほぼ同じぐらいの力があるところなんですね。

そういうことでぜひお願いしたいと思います。

＜県知事＞

もう終わっています。つくります。静岡南高校でしたかね、その跡地に、地球環境史博物館と、地球環境史ミュージアムといったかな、つくりますので御安心ください。

＜傍聴者３＞

私、今日法被を着てきましたのは、笹間神楽保存会という保存会がありますけれども、そこの会長をやっております。

少し御報告をさせていただきたいと思いますが、私たち今度の４月にフランスへ行きまして神楽の公演をするということで、この経緯を少し話しますと、昨年 11 月にここ笹間で国際陶芸フェスティバルというのが開かれまして、笹間地区というのはこの中で 20 分ぐら

い山奥なんですけれども、住民が 400 名ぐらいですけれども、そのフェスティバルに 4,000 人ぐらいの方が見えたという大成功をおさめました。

それで、そのオープニングをこの会場でやったんですが、そのときに陶芸家の方と、我々の笹間神楽保存会がコラボレーションをやりまして、大変評判がよかったわけです。それでその陶芸家さんから今度フランスへ行くんだけど一緒にやらないかというお話を受けまして、それじゃやりましょうかというようなことになりまして、４月の 24 日に行くことに決まりました。

ですが、私も還暦過ぎの年寄りで、海外旅行初めてですので、いろんな不安がありますので、県の方で何かいろんな物心両面でサポートをしていただければありがたいなと思って発言させていただきました。よろしくお願いします。

＜県知事＞

おめでとうございました。本当よかったですね。大いに笹間の神楽、向こうでＰＲをしていただいて、またこちらに見に来られるように仕向けていただければと思います。

＜傍聴者４＞

本日はとても貴重なお話をありがとうございます。また県民の安全安心な暮らしのため、日ごろから尽くしていただき、知事には本当にありがとうございます。

自分自身も３歳と６歳になる娘がいまして、その子供を安全安心して育てるための静岡県として質問させていただきます。また本日静岡県でどうしても 3.11 を経験した日本として浜岡原発が立地する静岡県として、原子力災害、防災計画について質問させていただきます。

また日ごろから知事の方は浜岡原発は安全が第一ということでおっしゃっていますが、福島でも事故が起こったように、事故が起こったときのそれ以降の安全対策というのがとても重要だと考えます。そういった中で日本はＩＣＲＰの勧告により、人工放射線による追加被曝の限度は、外部被曝、内部被曝合わせて１ミリシーベルトという基準があります。

また広島長崎での原爆手帳の交付も年間１ミリシーベルトと決められており、やはり追加被曝が１ミリシーベルトを超えるということは、健康に害するということが世界中でも認められている中、もしも安全第一ではあるんですが、浜岡で何か起こった場合には、静岡県民の子供たちの安全安心のために追加被曝、年間１ミリシーベルト以上の地域は支援

対象区域、今子ども被災者支援法でもありますが、やはり１ミリシーベルトの約束をしっかり守っていただきたいということを知事にお願いしたいことと、また決して福島で起こっていることは他人事ではありませんので、福島の方でも支援対象区域 33 市町村という短い区域ではなく、しっかり１ミリシーベルトを超える地域に関しては平等に、避難も居住も平等に扱われるよう、子供たちの安全のために御意見をいただければと思います。

＜傍聴者５＞

私は母子家庭で娘を育てまして、10 代で２回、海外に行かせております。１回目はカナダ、２回目は修学旅行がアメリカでございました。それで私は今島田市の国際交流協会の会員になりまして、英語とドイツ語がしゃべれる唯一の会員だと、事実上のナンバー１だと思っております。

それで１つ、知事にどうしても聞いていただきたいことがありまして持参してまいりました。これは私の教員の辞令でございます。私は一度教員に正規で勤めまして、その後事情があってやめました。そしてその次、臨時講師で 25、26 以上の学校を、それこそたらい回しで辞令がこんなに集まりまして 50 枚くらいあります。学校の勤務形態は非正規が非常に多く、また教員は過労死寸前の過酷な状態で働いております。

子供の学力のためにも、学校の正規教員を増やすということと、あと、ともかく紙の仕事が多くて、子供に向き合う時間が非常に少ないです。ぜひ学校教員の雇用状態の改善、それから勤務状態の緩和を、子供と向き合う時間を多く、それをぜひお願いしたいと思います。ありがとうございました。

＜傍聴者６＞

地元で発言者５さんたちと一緒に川根ワールドフォーラムということで、ガーデンシティ構想を一緒にさせていただいています。川根地域は人口が少ないと言われるんですけれども、私たちも都会からですけれども、川根のような地域で子供を育てたいというニーズは非常にあります。できれば今特区等でいろんな取り組みはあるんですけれども、さまざまに職域をつけてということで、川根本町には、例えばマクロビオティックスとか、かなり都会とか人口が多い地域の親御さんたちが、ここで子育てをしたいというニーズは非常にあるのではないかと思うので、ぜひ仕組みとして、ほかの地域から子育てでこちらの方に移りやすいとか、通ってきやすいような、いろいろな意味での幼稚園とか小学校の仕組

みのブリッジをしていただけると非常にありがたいと思います。

＜県知事＞

本当にたくさんの方に手を挙げていただきまして、全員に御発言いただけなかったのは、誠に申しわけありませんでした。

さっきの傍聴者３さん、今日は新聞記者が聞いていますよ。彼らが行けば大きな宣伝になると思いますので、今日はどこの新聞社が来ていますか。川勝が連絡をするように言ったというふうに電話してください。それがちょっとした支援でございますが、知られることが大切ですからね。

それから傍聴者４さん、御心配はもっともでございます。大丈夫ですよ。今９つ原子力発電所を持っている電力会社がありますけれども、恐らく最も一番安全に対して努力しているのが中部電力で、しかも何をしているかということをこういう会議で、もう 30 回近く開いていますが、必ず彼らが出てきていただいて、すべて情報をオープンにしてやっていただいています。

さらに安全のためには研究が必要でしょう。だから研究所をつくっていただきまして、また研究も勝手にしてもらったら困るので、公募をしていただいて、応募者がないでしょうと、今は人気がないから。そうしたら 10 件くらいはお金出しますよとおっしゃったら、83 件あったんですよ。そしてそこから 13 件選んでいただいて、そして１件につき 100 万円ぐらい出すとおっしゃった。私はそれは少な過ぎるというので、この４月からは、それにゼロが２つつきまして１億円になります。ですから安全のためには、もう徹底的にしていただくということでございますので、御心配は共有してますから、そのことだけ申し上げておきたいと思います。

それから傍聴者５さん、どうも立派な御家庭で、立派な御経歴をお持ちで、もう感じ入りました。ともかく今、小学校１年から中学３年生まで１学級 35 人以下というのをやっているところは全国では静岡県だけです。昨年終えたんですね。しかしそれは気持ちとしては、先生が子供と向き合える時間を多くするために、生徒さんの１学級の数を減らすということでしたんですが、今、傍聴者５さんがおっしゃったとおりのことはわかっておりますから、この４月から先生の数を増やします。そこには教育委員会といいますか、我々から独立した組織がありますが、そこから要望してくださいと。全部こたえるというふうにしておりますから、一気に解決が、すぐに現場のところにまで届くかどうかはちょっと様

子を見ますけれども、現状をよく知っておりますから御安心ください。

　それから川根本町は子供を育てやすいところだから、都会よりも、こういうところで伸び伸びと育った方がいいと。移住、定住を促進する試みはいろいろやっておりますけれども、子育てに一番いいところだというそういうＰＲをどういうふうにしたらいいか、またちょっと知恵もいただきまして、定住移住の候補地の、交通の便もいいし、きれいだし、すぐに行こうと思ったらどこにでも行けるというそういう面もありますからね、ある種のおしゃれ感覚のある自然豊かなところだということで、都会の方にとって新しいおしゃれをここで提供するような形で、お子様がこちらで育つようなそういう環境を一緒につくってまいりましょう。ありがとうございました。